

令和元年度第3回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和元年6月21日（金） 午前10時～12時
2. 開催会場 市民活動支援センター
3. 出席者 粉川一郎委員長、椎名武博委員、藤沢進委員、足立秀一委員、
志村はるみ委員、坂本富彦委員
(以上6名)
4. 事務局 市民活動推進課 佐瀬課長、金井係長、櫻井
(指定管理者) (株)東京ドームファシリティーズ 船内氏、齋藤氏
市民活動支援センター 宮本センター長、五十嵐副センター長
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題
(1) 平成30年度印西市市民活動支援センターの事業報告について
(2) 令和元年度印西市市民活動支援センターの事業計画について
 - 3 その他
 - 4 閉会
7. 会議要旨

2 議題

- (1) 平成30年度印西市市民活動支援センターの事業報告について

〔参考資料〕資料1、平成30年度印西市市民活動支援センター指定管理者事業報告書

《事務局報告》

資料1に基づき、平成30年度の指定管理業務について報告した。担当課としては、管理運営は1年を通して滞りなく、運営され、相談事業や企画事業についても、アンケート等の結果から、利用者のきめ細かいニーズに対応して実施されたと考えている。決算については、資料1に基づき、指定管理者から報告した。

《委員意見》

- ・管理運営実績の中で、目標利用者9,700人、実績14,045人であるが前年比は。また、夜間利用者数の増加要因及び夜間の時間帯は。
→前年利用は11,382人（だんご祭り来場者含む）で前年比123%。（東京ドームファシリティーズ）。夜間開館は水曜及び土曜日の17時から21時であり、定期的に2団体が活動している。その他町内会や不定期で利用している団体がある。（宮本センター長）
- ・利用者の内訳は。相談業務のうちどのような相談が多いのか。相談業務は重要と考える。個人相談

から団体の設立や団体からの相談で新たなニーズの掘り起こしに繋がる

→毎月、団体・個人及相談の区分について報告している。団体から年間126件、個人から92件あった。主な相談内容は団体から事業全般、講座イベントや助成金等、個人では団体紹介や立ち上げ登録等があった。団体と個人の利用区別はしていない、ほとんどは団体が利用している。(宮本センター長)

・登録団体が増えることが大切と考えている。登録団体が増えることは、支線センターが市民活動を始めたいという方々に、丁寧にアプローチしているかということと考えている。登録団体のHPが更新されていない、リンクが切れている等の団体がある。登録団体が増えている反面、活動が疎かになっている団体があるので、支援センターから声かけをしていただきたい。経費の内訳で労務費が占める割合が大きく、近年、最低賃金の上昇が大きいため、その他の経費を抑えていかないと運営できない。現状の経費で運営ができるのか心配している。次期指定管理期間の中で、良質なスタッフ確保のためにも、見直しが必要ではないのか。

→管理費の部分で考えながら抑えていきたい(東京ドームファシリティーズ)。皆さんに満足いただけるよう、頑張っていきたい。(宮本センター長)

→次期指定管理に更新に向け検討している状況である。より良い環境づくりを踏まえながら検討していきたい。(事務局)

・利用登録団体数の法人格の種類や任意団体等の内訳及び社協との連携で行っているボランティア体験プログラム事業の様子、インターンシップ受け入れの様子を教えてください。

→カテゴリーごとにまとめている。NPO法人については、各カテゴリーに1件程度である。社協とのボランティア体験については、今年で4回目となる。支援センターから社協へ声掛けをして実施している。ボランティアってなんだろう？中高生にボランティアの心構え、希望する団体の紹介も含め受け入れている。終了後、振り返りの会として、意見交換を行い次につながるよう実施している。社協との繋がりをもつことは非常に大切なこと。その後災害時のボランティアセンターの勉強会を共同で実施した。インターンシップは大学生が2件(2人)、高校生が1件受け入れている。

(宮本センター長)

・平成30年度事業報告によると、量的な面では利用者実績及び登録団体実績等から目標値を大きく上回る状況であり、質的な面からも、丁寧な対応を進めており、満足すべき十分な実績を上げていると委員の皆さんが判断しているものと承知をいたしました。一方で質・量ともに成果を挙げている状況を鑑みると、予算面が厳しい状況にあるといえる。公金を使用している事業であるので高額であればいいというものではないが、現場の皆さんが疲弊しまうようなものになってしまうと本末転倒である。今の質・量を担保していくためには、当初の想定より支援センターが活性化していることを踏まえ予算編成をしていく必要がある。(粉川委員長)

《休憩時間・施設見学を実施》

(2) 令和元年度年度印西市市民活動支援センターの事業計画について

《事務局報告》

指定管理者から資料2に基づき、今年度の事業計画のうち、数値目標、企画事業、予算計画などについて、昨年度との比較を踏まえて説明した。

・利用者数の増。支援センターの活動室をどういう使い方をしていくのか。活動室とは何かを考えていけないといけない。活動のための準備をするのか活動室の本来の使い方であり、市民活動は外で

活動するのが本来の目的である。目的によって優先順位を付けて、貸館していくのも考えていかな
いといけないのでは。

→定期的な利用をしている団体もある。事前に団体の利用状況を把握しながら、支障のないよう調
整している。(宮本センター長)

- 登録団体の更新は。登録だけして、活動が休眠している団体もあるのでは。
→年1回行っている。活動が少ない団体も把握している。(宮本センター長)
- 予約者が多く、利用が限られてくる。施設の運営管理だけが本来の目的ではなく、利用者が市民
活動を通して、市が盛り上がりより良い暮らしに繋がることが大切である。本来の質の部分につ
いて運営管理が行えれば良いのでは。今後も期待したい。
- 活動実績がない団体については、意向を確認していくことも必要。特定の団体利用は悪くはない
が、限度もあるのでは。広く利用していただきたいので、ある一定の目安が必要ではないか。
- 質というところは大切なところ。これまでは利用団体や登録団体の増に注力してきたと思うが、
印西市の人口が急増しているわけではないので、市民活動団体も急激に増えていくとは考えにく
い。今ある団体をいかに、地域の課題解決や地域の価値を高めるということに、どれだけシフト
していけるのかを支援センターの1つの軸足として持っていてもいいと思う。
- 団体間の交流機会について検討いただきたい。
→実施には検討に時間を要する。今年度も実施は難しい課題として捉えている。

(宮本センター長)

- 利用者が増えており、活発に利用している状況がある。夜間開館時間の拡大の検討はできないの
か。営利企業としてビジネスとしてどうなのか。
→現在、開館時間の拡大については検討に至っておりません。今後は、必要に応じ検討していき
ます。(事務局) 支援センターでの実績により、将来的な投資という意味では有益であったと考
える。(東京ドームファシリティーズ)
- これまで同様、質の向上に努めていただきたい。(粉川委員長)

3 その他(事務連絡等)

- 企画提案型協働事業で市が募集する「指定テーマ」は、「竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
の実施」の1件となった。
- 次回の委員会は8月2日(金)午前10時に開催する。8月16日(金)文化ホール

以上

令和元年6月21日に行われた、印西市市民活動推進委員会の会議録は、事実と相違ないので、
これを承認する。

令和2年1月16日

会議録署名委員 粉川 一郎